

豊田市
郷土資料館
だより

No.58

Toyota City Museum
Of
Local History

目次

- ・豊田市郷土資料館特別展開催報告 「新・豊田の文化財展」を開催しました — 2
- ・平成18年度 西三河地方史連絡協議会研究発表大会開催される — 3
- ・近代化遺産紹介 矢作川水系の水力発電所 — 4
- ・地域資料館紹介 稲武郷土資料館・旭郷土資料館 — 5
- ・埋蔵文化財調査速報 堂外戸遺跡・学母城(七州城)跡 — 6
- ・遺跡紹介 川口城 — 7
- ・文化財シリーズ58・資料館NEWS — 8



左「木造松平親氏坐像」、右「木造徳川家康像」／特別展「新・豊田の文化財展」(本文P 2)に並んで展示されました。

「新・豊田の文化財展」を開催しました

10月28日(土)～11月26日(日) 平成18年度特別展
「新・豊田の文化財展」を開催しました。

展示された文化財は、国指定文化財7点、県指定文化財16点、市指定文化財49点です。国・県指定の文化財は、どの資料も見ごたえがあるものが多く、市指定の文化財は、地域の歴史や文化をしのぶ事ができる資料が多くありました。

今回は、旧町村指定文化財のうち展覧会に初めて出品された資料について紹介します。

市指定文化財・彫刻「木造天部立像」(観音寺蔵)



足助町岩崎にある観音寺が所蔵する「木造天部立像」2軀のうち、展示したのは多聞天です。桧材の一本造りの像で12世紀前半もしくは、11世紀末の作と考えられています。像全体を眺めると、細かな彫刻はなく素朴な感じのする造形で黒い彩色と玉眼は後の時代に作られた憤怒の形相が迫力のある像です。指定された時点では像名の特定はできませんでしたが、今回の展示

に先立って行われた修復作業で台座部分に銘文があり多聞天像であることがわかりました。

市指定文化財・彫刻「木造南無仏太子像」(明誓寺蔵)



^{わちばら}
月原町にある明誓寺が所蔵するこの像は、高さ41cmと比較的小さなものです。真っ直ぐに正面を見据え合掌するりりしい姿です。体は薄い黄土、袴は朱に塗られ頭は体に比較してやや大きく作られています。この像は聖徳太子を釈迦そのものと

考える太子信仰に基づくもので太子二歳の姿をあらわしています。月原の真宗門徒が、石山合戦後、越後へ向かう途中、仏像・宝物などを持って出発したところ、途中の網平(月原町地内)に隠し遺したと伝えられる像

です。智証大師の作ともいわれ、室町時代の作と考えられています。

市指定文化財・有形民俗文化財

「石造薬師如来坐像」(永太郎町蔵)



石で造られた素朴な像容の薬師如来坐像です。像の高さは31cm、光背を含めた総高は53.5cmです。地元の人々が製作したと考えられています。表面に「元禄十六年(1703)」 「未二月八日」と彫られ、裏面には「永太郎村」と彫

られています。もとは永太郎町蔵満にあった薬師堂の本尊でしたが、堂が腐朽したため現在地(永太郎町馬場)に祀られるようになったそうです。現在も信仰を集めるこの像は、地元の方々のご理解があって展示する事ができたものです。

市指定文化財・典籍「足助八幡宮縁起」(足助八幡宮蔵)



南北朝時代の早い時期に成立したと考えられている縁起です。歴史の資料としての価値が目立っているもので、内容は『続群書類従』に収録され『参河国

名所図絵』もこれから引用されていますが、展示公開されたのは初めてです。

この他にも市指定・絵画「絹本着色方便法身尊像」(願永寺蔵) 市指定・書跡「紙本墨書伝蓮如筆六字名号」(専休寺蔵)など多くの旧町村指定の文化財の初公開の機会となりました。それは、これまで旧町村では常設の資料館はありましたが、企画展示をする施設がなかった事によります。

今回の特別展期間中、市域に伝わる貴重な文化財を多くの方々にご覧いただくことができ、地域の宝を再認識する機会となりました。

(伊藤智子)

平成18年度西三河地方史連絡協議会研究発表大会開催される

11月2日・於豊田市崇化館交流館

西三河地方史連絡協議会

西三河地方史連絡協議会は昭和29年7月、安城市において第1回の研究発表大会が開催されており、この頃結成されたとおもわれます。西三河の安城、刈谷、挙母(現豊田市)、碧南市、桜井町(現安城市)、知立町(現同市)と知多の東浦町などの自治体を中心となって組織されました。当初の名称は研究座談会とよばれ、昭和33年まで、年2回の研究発表大会が開かれていました。その後昭和35年に会員数増加とともに地方史連絡協議会と名称変更がおこなわれました。毎年、加盟市町を輪番で会場として当地にふさわしい講演、研究発表、研修、史跡等の見学会、文献頒布等の研究大会や古文書演習帳の発行などの活動がおこなわれてきました。

昭和45年9、12月吉良町で理事会が開かれ、役員増加など組織強化策が提案され、翌46年3月、岡崎市郷土館において西三河と知多地方の29市町村と地方史研究団体が参画して、あらたに西三河・知多地方史連絡協議会が結成されました。当時の規約3条によりますと「本会は西三河地区市町村ならびに知多地区市町村の地方史研究会相互の連絡協調を図り郷土の文化振興に寄与することを目的とする」とうたわれています。その後平成17年知多地方の会員が不参加となり名称も西三河地方史連絡協議会と改称されました。研究大会も昭和61、平成2、16年を除いては毎年開催され活発な活動が続けられてきました。

平成18年度研究発表大会

平成18年度研究発表大会は去る11月2日木曜日(10:00～15:00) 豊田市昭和町の豊田市崇化館交流館で開かれました。長坂一昭会長、吉田万佐敏豊田市教育委員会教育長の歓迎のあいさつにはじまり、記念講演と研究発表がおこなわれ、110数名の参加がありました。以下に内容の要約を記します。

〈記念講演〉

木島史雄(愛知大学助教授・豊田市郷土史研究会々員)

「猿投神社の漢籍について」

- ・はじめに
- ・重要性理解のために
- ・猿投神社漢籍の特色
- ・研究展望

・『孝経』受容史の試み

・おわりに

猿投神社本『孝経』は鄙性、冊子体、受講側、雑訓、古い字体等の特色をもち、中央博士家本(清家文庫本)とは対照的な性格をもち、中世日本における『孝経』受容史上非中央的な代表である。猿投本の存在によって『孝経』受容の展開が明らかになることを述べられました。また最近の典籍書写本の研究動向についても興味ある事例を紹介されました。

〈研究発表〉

石川 林(豊田市郷土史研究会々員)

「義民飯野八兵衛と一揆」

・はじめに

事件の背景

・一揆事件の概略

竹槍で武装した集団ではなかった

・処刑理由

被処刑者名が豊田市史と違う

・藤岡民俗資料館所蔵の古文書

年貢米の比較

・口碑伝説紹介

・豊田市史の誤り

指摘と解説

宝暦2年、挙母藩領飯野村を中心に発生した百姓の強訴事件を取りあげられ、これまでの『七州城沿革小史』(渡辺善次著)にウエイトをおいた飯野八兵衛一揆の顛末観に疑問を呈され、『挙母藩史』の立場から新たな見解を提起されました。百姓1,241人が江戸出訴に向かったとされている点に、一揆に加わった村々の人口から推測すれば多すぎるとの見解をしめされるなど豊田市史の記述に矛盾を提起され、熱のこもった独創的な研究を発表されました。(松井孝宗)



発表中の石川氏

矢作川水系の水力発電所

西三河随一の大河である矢作川は、長野県の大川入山に源を発し、豊田市を南北に貫流して三河湾に注いでいます。この矢作川およびその支流を含めた矢作川水系には、現在26ヶ所の水力発電所が建設されています。そのうち、18ヶ所の発電所が豊田市内に所在しています(その他、長野県1ヶ所、岐阜県6ヶ所、岡崎市1ヶ所)。

矢作川水系の水力発電所の開発の歴史は古く、明治30年(1897)に運用を開始した岡崎市にある岩津発電所(堰堤の一部は豊田市内)は、現在の中部電力(株)管内で最も古い水力発電所です。岩津発電所に続いて明治から昭和初期に建設された水力発電所で現在も発電を続けている施設として、下表の発電所があります(所在地はすべて豊田市内)。

豊田市内の近代の中部電力(株)発電所一覧表

名 称	竣工年(西暦)	所 在 地	備考
川下発電所	明治33年(1900)	川下町	△
盛岡発電所	明治41年(1908)	戸中町	×
東大見発電所	明治44年(1911)	東大見町	×
加茂発電所	大正3年(1914)	安見京町	×
巴川発電所	大正5年(1916)	四ッ松町	×
足助発電所	大正8年(1919)	岩神町	×
白瀬発電所	大正9年(1920)	幸海町	×
押山発電所	大正11年(1922)	押山町	×
時瀬発電所	大正12年(1923)	時瀬町	
真弓発電所	大正12年(1923)	川手町	
百月発電所	大正15年(1926)	百月町	×
越戸発電所	昭和4年(1929)	平戸橋町	
阿摺発電所	昭和9年(1934)	大河原町	
黒田発電所	昭和9年(1934)	黒田町	×
笹戸発電所	昭和10年(1935)	笹戸町	

(備考欄の×は改修によって当初の姿が失われた施設。
△の川下発電所は大正10年の建替え。)

市内に所在する18ヶ所の発電所のうち、実に15ヶ所が明治から昭和初期に建設された施設です。これらの発電所は、いずれも発電量が10,000kW以下の小規模な施設です。初期の発電所は矢作川本流ではなく巴川をはじめとした支流に堰堤を築いて取水しています。



川下発電所
(大正10年に建替えられた県内唯一の木造発電所)

明治から昭和初期に建設された水力発電所の存在は、水量豊富な谷川や水を落とす落差を得ることができる地形など、水力発電に適した環境が市域にあったことを物語っています。



越戸発電所

発電所の建物の中には越戸発電所や笹戸発電所のようにアール・デコ調の装飾が施され、華やかな雰囲気漂うものもあります。また発電所は単体では存在せず、堰堤や水路、水槽などの設備が一体となって機能しています。発電所の建物が改修を受けて当初の姿が失われた施設であっても、堰堤や導水路などには、当初の設備が残っているところもあります。

近くにお出かけの際には、近代の歴史的な遺産として矢作川水系の水力発電所を眺めていただきたいと思います。

(天野博之)

(参考文献) 愛知県教育委員会 2005 『愛知県の近代化遺産』

地域資料館紹介

〔豊田市稲武郷土資料館〕

稲武郷土資料館は、旧小田木小学校を使用して昭和61年(1986)に開館しましたが、建物の老朽化のため現在地に新築して、平成15年4月に開館しました。

国道153号はその昔、中馬の道として人馬の往来が多く、民具、農具など当時の暮らしをしのべる資料を展示しているため、愛称を「ちゅうま」としました。

明治100年を記念して蒐集した民俗資料、歴史資料を中心に、資料館開設のために昭和59・60年度に蒐集した資料を合わせて展示しています。

県指定文化財の「人形浄瑠璃の首と衣裳」、市指定の「川手若宮鰐口」「クダリヤマ遺跡の鍔付短頸壺」「清泰地遺跡出土灰釉陶器一式」も展示しています。

- 住 所 豊田市黒田町南水別713
(稲武バス「水別」「北水別」下車、徒歩3分)
TEL 0536-82-3439
- 開館時間 午前9時～午後4時30分
- 休 館 日 毎週月、金曜日
12月20日～2月10日
- 入 館 料 大人300円
(20名以上の団体は200円)



稲武郷土資料館

人形浄瑠璃の^{かしら}首と衣裳

明治10年(1877)ころまで、小田木地区で盛んに行われていた、人形浄瑠璃を上演するための人形の首45個と衣裳30点です。大舅、三枚目、娘、山姥、検非違使など、役柄にあわせたいろいろな首があり、紀年銘のあるものとしては日本で2番目に古いといわれる宝暦2年(1752)の首もあります。

長い間、修理されながら、大切に使用されてきたものです。



人形浄瑠璃の首と衣裳

〔豊田市旭郷土資料館〕

昭和25年(1950)4月に浅野中学校の校舎として建築された建物を使用して、平成14年(2002)に開館した資料館です。

旧教室ごとに農耕、養蚕、林業・紙すき、生活用品、祭礼・年中行事、自然科学・標本、歴史資料・教育文化の7コーナーにわかれ、約1,500点の資料が保管されています。中でも、幕末の嘉永4年(1851)に奉納されたタテ1.85m、ヨコ3.70mの大きな千匹絵馬や昭和46年(1971)に完成した矢作ダムの水没地域から蒐集した弁慶号の^{ごてえ}鰻絵(漆喰を塗った上に鰻で風景や肖像などを描いた絵)は貴重な民俗資料です。

- 住 所 豊田市浅谷町下万場303-2
(旭バス「小渡」下車、徒歩30分)
- 開館時間 午前9時～午後4時
- 開 館 日 毎週土・日曜日
- 入 館 料 無 料
- 問い合わせ 豊田市役所旭支所 地域振興担当
TEL 0565-68-2211



旭郷土資料館(弁慶号)



どうたくん

埋蔵文化財調査速報



すえちゃん

○^{どうがいと}堂外戸遺跡(市木町堂外戸)

9月から2,900m²の調査を開始し、10月末までに竪穴建物15棟、掘立柱建物13棟などを検出しました。竪穴建物の多くはカマドではなく炉を持つことから、5世紀以前が中心となるようです。1辺8mにも及ぶ大きな建物もあります。また、この遺跡に特徴的な2×2間の総柱建物も7棟を確認しています。

台地縁辺部の方形周溝墓(弥生時代中期末前後)は、今回の調査区では今のところ見つかっていません。しかし、土器棺墓と思われる弥生時代中期中頃の埋設土器(写真)を検出しており、墓域の変遷をたどるうえでも貴重な遺跡となりそうです。(森 泰通)



土器棺墓

○^{きょうぼ}拳母城(七州城)跡(小坂本町)

拳母城(七州城)跡では隅櫓の北側の斜面地の保全に伴う調査と道路建設に伴う調査を実施しました。

七州城域の南端の堀部分から南東隅にあたる区域で道路建設が計画され、堀部分は七州城図(牧野敏太郎画)及び現況から遺構がないと推定し、調査対象とはしませんでした。南東隅の区域は「黒門」付近にあたり、



廃棄された陶磁器など(黒門付近)

遺構が残っている可能性があることから試掘調査を実施しました。その結果、城に関係する遺構が残っていることがわかりました。工事の進捗との関係から9～10月に工事に必要な通路にあたる区画382m²について緊急調査を実施しました。この調査区域は「黒門」付近に位置し、城の東南部の平坦面の一部にあたります。部分的な調査のため、遺構の全体像を把握することは難しく、詳細はわかりませんが、ここでは性格不明の溝や陶磁器などが捨てられた土壌がみつかりまし

た。土壌からは碗・皿・鉢・灯明皿などの陶磁器類や瓦などが出土しています。これらの遺物はいずれも江戸時代後期のものです。平成19年度には今回の調査箇所周囲約1,350m²を調査する予定です。



隅櫓の北側の調査区

いっぽう、隅櫓の北側斜面の保全工事に伴う調査区画は約100m²を調査しています。ここでは隅櫓の石垣に接する石垣が幅約5m残っていましたが、今回の調査ではこの箇所の測量調査を中心に進め、工事の進捗にあわせて石垣の断面なども調査しています。また、上部の面では石垣の控の石組みや礫などもみつかったほか、塀の礎石と推定される石などもみついています。この調査区では工事と並行しながら調査を進めているため、一部の調査がまだ残っていますが、7～11月におよその調査を終えました。調査では出土遺物はわずかでしたが、若干の陶磁器類と瓦がみつかります。(杉浦 裕幸)

豊田市内の合併した地区には開発を逃れて比較的良好な状態で今日まで残ってきた山城が多く見られることから57号では下山地区の大桑城を紹介しましたが、今号では藤岡地区の川口城(下川口町井戸入)を紹介します。

川口城は矢作川を眼下に望む標高130~140m、比高40mの矢作川右岸の丘陵上に位置しています。眼下の矢作川岸には縄文時代の著名な遺跡である水汲遺跡があります。

城の立地する丘陵は北に尾根が続いていますが、堀状の窪みにより区切られています。城は主郭とそれを取り巻く帯状の曲輪から構成されています。帯状の曲輪の南西面には虎口と考えられている部分に短い堀状のくぼみがあり、区切られています。規模は約40m×30mです。遺構(曲輪)は良好な状態で残存しています。

川口城の城主については、『三河國西加茂郡誌』に「川口城址

富貴下村大字上川口字城ヶ峯二在リ坪数凡式拾壹坪山勢峻シクシテ高く峙ツ其最モ高キ処石壁ノ遺レルヲ見ル三河二葉松二川口源左衛門居城ト事趾未詳澤田家譜云水野春次(略)武田氏ノ為ニ襲ハル春次城外二遁レ洞穴ニ匿ル甲兵城二火ス城遂ニ陥リ春次尾州水野村(略)ニ移ル其臣澤田次郎太夫貞次アリ子孫本村二住シ國光ノ短刀馬鑣等ヲ伝フ水野氏ヨリ賜フ処ト云」という記述があり、水野氏の居城であったものを後に澤田氏が治めたことが推定されますが、具体的な史料が残っていないため詳細は不明です。

川口城は先に紹介した大桑城と同様に構造が単純で小規模な山城で、現況でも遺構が明瞭に残り、見学するには、わかりやすい山城となっています。城跡までは南側の尾根上から登ってくる道と近年整備された北西の農道から北側をまわって登る道があります。

近くには川口のやなもあり、川遊びややなに遊びにいった際にこの城を訪ねてみませんか。

【参考文献】

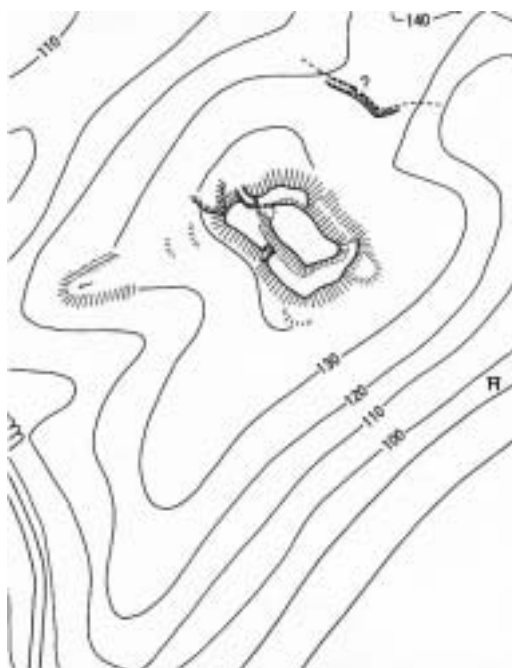
田中正幅 1892 『三河國西加茂郡誌』
安藤慶一郎他編 1974 『藤岡村誌』 藤岡村
神尾光昭 1993 「川口城」『藤岡・小原・旭の中世城館』
愛知中世城郭研究会



主 郭(北より)



主 郭(北東より)



縄張り図(『愛知県中世城館跡調査報告Ⅱ』より)

(杉浦 裕幸)

文化財シリーズ



綾渡の夜念仏と盆踊 国指定文化財

夜念仏は、新仏(1年のうちに亡くなった人)のある家々を回り、霊を慰めるために回向を手向け、余興として手踊り(盆踊り)を踊るもので、かつては三河山間部から岐阜県の旧上矢作町にかけて広く行われていました。足助でも14地区で行われていましたが、今も伝わるのはこの綾渡の里だけです。

昔は青年が中心となって旧暦の7月1日から17日まで行っていました。戦後、戸数が少なくなり継続が難しくなったことから保存会を結成し、今では8月10日と15日の2回、平勝寺境内で行っています。

午後7時ごろ、平勝寺の参道に集まって隊列を組み、「道音頭」を唱えながら石仏の前で「辻回向」、山門前で

足助の街並から東へ5 km ほどの山間に綾渡の集落があります。戸数は27戸で、山里としては一般的な規模の集落です。この地区では毎年盆になると夜念仏が行われています。

「門開き」、観音堂前で「観音様回向」、氏神神明宮前で「神回向」、最後に平勝寺本堂前で「仏回向」を唱えて終わります。

余興の盆踊りは、楽器を使わず「音頭取り」の歌にあわせて下駄の足拍子だけで踊る素朴なものです。曲目は10曲が伝えられていますが、一般の人がすぐに踊れるものではなく、何度となく練習を繰り返し体得していきます。

綾渡の夜念仏と盆踊は、民俗芸能というより人々の仏に対する祈りそのものが込められています。



資料館NEWS

文化財めぐり

特別展開催にあわせ、11月11日(土)・18日(土)に市内の史跡・天然記念物を訪ねる文化財めぐりを開催しました。

11日(土)は藤岡の「旧山内家住宅」、小原の「市場城址」、道慈山観音寺「仁王像」、杉田久女句碑などを訪ねました。



18日(土)は松平の国指定史跡「大給城址」、下山の「羽布の石仏(名号塔、三十三観音)」、「香恋の里」、市指定天然記念物「白山神社スギ、ヒノキ」、大桑城址を訪ねました。



初めて史跡等を見学した方も多く、大変喜んでいただけました。

特別展は期間中に2,350名の来館者があり、大盛況に終わりました。

発見館ホームページ開設

豊田市近代の産業とくらし発見館のホームページが開設されました。企画展や催事案内、近代化遺産の分布図などが掲載されています。近代からとよたを発見する窓口として、ぜひご覧ください。

発見館 URL <http://www.toyota-hakken.com/>

利用案内

開館時間 9:00～17:00

休館日 毎週月曜日(祝祭日は開館)、年末年始

入場料 無料(特別展開催中は有料)

交通 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩10分

名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩15分

愛知環状鉄道「新豊田駅」より北へ 徒歩15分

駐車場 約20台

■豊田市郷土資料館だより No.58■

平成18年12月8日発行

編集・発行 豊田市郷土資料館

〒471-0079 豊田市陣中町1-21

☎(0565)32-6561 FAX(0565)34-0095

E-mail: rekihaku@city.toyota.aichi.jp

URL: <http://www.toyota-rekihaku.com>

※豊田市郷土資料館だよりはHPでもご覧になれます。